

体育学習研究部会 研究報告

1. 日 時 平成 19 年 6 月 18 日 (月) 14 時 30 分より
2. 会 場 横浜市立みなと総合高等学校 4 階教室
3. 出席者 松本 (戸塚) 渡辺 (桜丘) 岸田 (金沢) 伊藤 (戸定) 山下 (南)
岡本 (東) 林 (横商) 佐藤 (横商) 村上 (みなと) 長谷川 (横総)

4. 研究内容

○宿題「バレーボールの授業における課題」について意見交換

- ・ 各校のバレーボールの実施状況を報告 (時間数・集団の人数等を比較)
- ・ 生徒の実態による授業内容の違いを確認

意見

- ・ 生徒が求める目標が低い。(ミスをしたくないからアタックはしない等)
- ・ 発展的な課題へ進めていきたいが、その段階に行く前でつまづいてしまう。
- ・ 男子は攻めから、女子はつなぐことから楽しさに気づかせ、他の技能の必要性を感じさせていくとよい。
- ・ 単発の個人技能の練習が多いので、流れの中で学んでいく方法はないか？
- ・ 3 年間通してバレーボールを積極的に行っている。男子はあるレベルまでは引き上げられるが、女子のレベルを高めるのは厳しい。
- ・ 個人技能から集団技能へ、正規のコートでゲームができるまでの指導方法を考えていきたい。
- ・ 指導方法の工夫としては、
 - コート縦半分 3 対 3
 - バドミントンコートを使用する
 - 片側がサーブ、片側はそのレシーブからフォーメーション練習
 - 片側がスパイク、片側はそのボールをキャッチしてレシーブの練習その他、多くの練習方法を挙げ、練習効果について意見交換をした。
- ・ 教材の工夫として、ボールの大きさを変える (大きく・小さく) (重く・軽く) ネットの高さを変える等が考えられる。

○研究の方向性確認

- ・ スポーツの楽しさ (バレーボールの特性) をより深く味わわせるための指導方法を見つけていく
- ・ 各段階は気にせず、様々な場面での指導の工夫を研究していく

○研究テーマの確認

「バレーボールの特性をより深く楽しませるための指導の工夫」(仮)
～ 正規のルールでバレーボールを楽しむことができるまでに ~

5. 次回日程 8 月 1 日 (水) ~ 3 日 (金) 夏季研修会

6. 宿題

「段階を気にせず、各場面での指導の工夫を考え、指導方法を持ちよる。」

資料、文書にしましょう。

欠席の場合は、松本先生または出席予定者へ送付しましょう。